

浅草名所 七福神めぐり



明けましておめでとうございます。今年のお正月は、家族みんなで「浅草名所七福神」めぐりをしました。ここは、そのあと行った隅田公園の平成中村座。久々に歌舞伎を満喫しました。浅草公会堂でも、お正月恒例の「新春浅草歌舞伎」が上演されています。
(MAPの①)

今回の登場人物



業平 武司
業平家の長男であずまの弟。サッカーと剣道と愛する高校生。



業平 あずま
業平家の長女。母親が経営する英会話教室を手伝う。趣味は旅行。

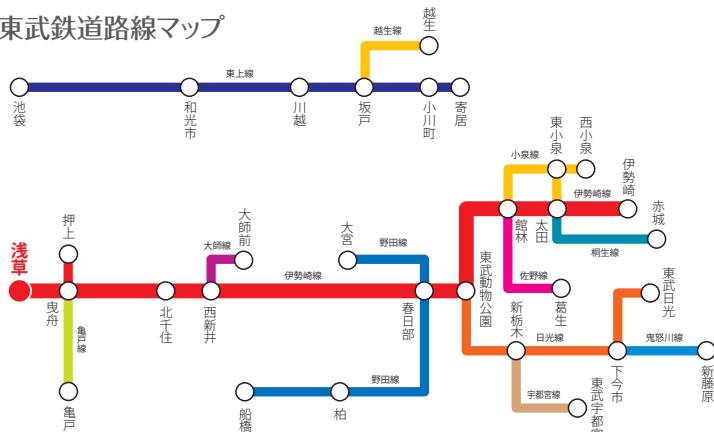


業平 道子
あずまの母親。小学生向けの英会話教室を経営する。趣味は園芸。



業平 鉄男
あずまの父親。食品会社に勤める。歴史とジャズとよく愛するサラリーマン。

東武鉄道路線マップ



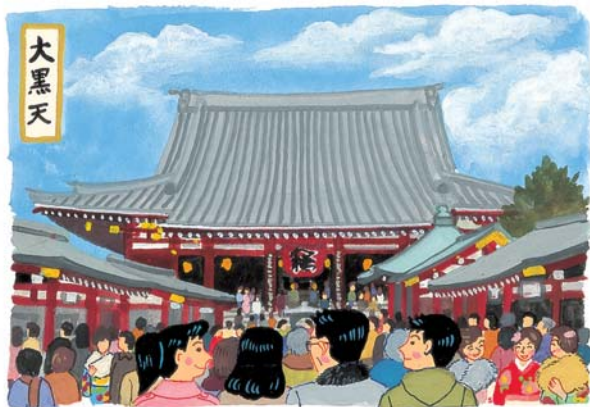
浅草

(あさくさ)

初詣ではどちらへ？ 毎年決まったひとつの神社へ参る方もいれば、いわゆる三社参りをする方もいますが、もっと念を入れれば七社参り——七福神めぐりもまたおすすすめ。浅草にも七福神をめぐるコース「浅草名所七福神」があります。が、ちょっとユニークなのは、「七福神」と謳いながら、じつは数えてみると九社寺から成っていること。七福神めぐりよりさらに念を入れた初詣なのです。さあ、お正月の浅草の賑わいを楽しんでください。



浅草寺のお隣に建つ「浅草神社」です。「三社さま」と親しまれているお社。七福神のなかでは唯一日本の神様、恵比須神を祀ります。大漁をもたらしてくれる福の神です。境内では猿回しが行われていましたよ。(MAPの㉔)



浅草駅からまず向かったのは「浅草寺」。普段でも賑やかな仲見世が、初詣での善男善女を集めずごい人出です。七福神では、米俵に乗って福袋と打出の小槌を持ったお姿の、大黒天を祀っています。(MAPの㉕)



ここでちょっと一休み。ランチにみんなで天丼をいただきました。七福神めぐりをレンタサイクルを使って楽しんでいる人たちもいました。隅田公園自転車駐車場で、1日200円で貸し出しますよ(12/30~1/3は休み)。



ここは福祿寿を祀る「矢先稲荷神社」。京都の三十三間堂にならって、三代将軍家光のときに三十三間堂を建立し、通し矢が行われていたとか。格天井には、馬にまつわる歴史を描いた100枚の絵が描かれているそうです。(MAPの㉖)

東京スカイツリー®を眺めながら七福神めぐり

「浅草名所七福神」はどのような順序で回ってもかまいません。福笹に九社それぞれの福絵馬を結んだり、色紙や福絵に御朱印を押しもらいながら回れば、気分はスタンブラー。また、正月期間の七福神めぐりには甘酒などの接待を行う社寺もあり、楽しさ倍増です。さあ、東武の浅草駅前から出発です。

まずは「浅草に来たら観音さまにごあいさつ」というわけで、雷門から仲見世を埋め尽くした人並みに乗って、広々とした浅草寺境内へ。ここからは間近に東京スカイツリーを眺めることができます。浅草寺に祀られているのは大黒天。江戸時代から「米びつ大黒」と親しまれています。

浅草寺と境内を共有して建つのは、三社祭で有名な浅草神社。ここでは恵比須が祀られています(神像は非公開)。

それにしても正月の浅草の街は、浮き立つような賑わいぶり。浅草公会堂では、正月恒例の「新春浅草歌舞伎」が若手の役者を中心に演じられています。もともと江戸時代では、浅草こそ歌舞伎のメッカだったのです。

華やかな街を後にして向かったのは、松が谷の矢先稲荷神社。寛永年間に三十三間堂(矢場)の守護として勧請されました。祀られているのは福祿寿です。

続いては、西の市で知られる「おとりさま」——千束の鷲神社。ここに祀られる寿老人をお参りしたついでに、巨大なおかめの頭像「なでおかめ」を撫でると、数々の御利益があるそうです。



七福神のなかで唯一女性の神様、弁財天を祀る「吉原神社」です。明治5年に5つの社を合祀して創建されたそうです。近くには、樋口一葉の資料を展示した「一葉記念館」もありますよ。

(MAPの㊦)



「おとりさま」の名で親しまれている「鷲神社」にやってきました。ここは寿老人を祀っています。なでるところで御利益が違うという「なでおかめ」も人気。おでこだと賢くなり、向かって右側の頬だと恋愛成就だそうです。(MAPの㊧)



大きなカスタクスの近くに建つ「石次神社」です。ここは寿老神を祀ります。人ごなく神と書きます。安藤広重や河鍋曉斎の浮世絵にも描かれた、由緒あるお社です。白狐詣や富士遙拝所といったユニークなものも。(MAPの㊨)



ここは布袋尊を祀る「橋場不動院」。こちらの布袋様の像は、肩に袋がなくお腹が袋の形をしている珍しいもの。現在の建物は1845(弘化2)年建立で、関東大震災も東京大空襲の災禍もまぬがれたそうです。(MAPの㊣)

江戸の華やきを偲ぶ 隅田川界限

鷲神社の裏手には比較的小さな吉原神社が建っています。その名の通り、遊郭の盛衰とともに歴史を重ねてきた鎮守の社。いまも幸せを祈る女性への御利益がよく知られています。祀られているのは、もちろん紅一点の弁財天。

次は隅田川に向かいます。白鬚橋の袂近くに2つの神社があります。そのひとつは、布袋尊を祀る橋場不動院。明治末の大火、関東大震災、そして東京大空襲の際にも、不動院を中心にした橋場の一角だけは災禍をまぬがれたことから、「橋場の不動尊」として地元の人々に親しまれています。もうひとつは、聖武天皇の時代に創建されたと伝わる古社・石浜神社。寿老神を祀っています。お参りした後に踵を返せば、石の鳥居の中に東京スカイツリーがすっぽり収まって見える風景を発見。ここからは隅田川に沿って浅草駅方面へ向かいます。今戸神社に祀られるのは福祿寿。「今戸」といえば、今戸焼の招き猫というわけで、今戸神社の境内は猫の人形でいっぱい楽しい神社です。七福神めぐりの締めは、毘沙門天を祀る待乳山(ちゅうちやま)聖天。「待乳山」は隅田川を望む海抜わずか9m半の山で、高層建築物でいっぱいになった現代では境内から隅田川を眺めることはできませんが、その代わり東京スカイツリーの眺めは抜群です。隅田川では、ただいま「平成中村座」が公演中。河畔に仮設芝居小屋を建てての歌舞伎は、江戸時代の浅草で興行していた中村座が時空を超えて現代に甦ったような雰囲気です。平成の世に江戸時代がぎゅっと詰まった街。それが浅草なのです。



毘沙門天

浅草名所七福神めぐりの最後に訪れたのがこの「特乳山聖天」。毘沙門天を祀ります。毎年1月7日には「大根まつり」が行われ、特に賑わいをみせるそうです。江戸時代の名残をとどめる築地塀も残されています。(MAPの①)



福祿寿

招き猫発祥の地のひとつとして知られ、縁結びのパワースポットとして人気のある「今戸神社」です。福祿寿を祀ります。ここは沖田総司終焉の地としても有名です。(MAPの①)



浅草データファイル

〈新春浅草歌舞伎〉・・・●交通=浅草公会堂(浅草駅徒歩5分) ●上演期間=1月2日(月)~26日(木) ●上演時間=第1部11:00/第2部15:00 *16日は第1部のみ、9日・17日は第2部のみ ●料金=1等席9000円/2等席5500円/3等席2000円 ●演目=第1部『南総里見八犬伝』一幕、夕霧伊左衛門『廓文章(くるわぶんしょう)』吉田屋/第2部 通

し狂言『敵討天下茶屋聚(かたきうちてんがぢややむら)』三幕 ●予約=チケットホン松竹 ☎0570-000-489 〈平成中村座 壽初春大歌舞伎〉・・・●交通=隅田公園内仮設劇場(浅草駅徒歩12分) ●上演期間=1月2日(月)~26日(木) ●上演時間=昼の部11:00/夜の部16:00 *6日・11日・17日・26日は昼の部のみ、10日・18日・23日は夜の部のみ ●料金=松席(1階

平場)・竹席(1・2階)12000円/梅席(2階)9000円/桜席(2階)8000円/お大尽席(2階)35000円 ●演目=昼の部『義経千本桜』鳥居前、新古演劇十種の内『身替座禅(みがわりざぜん)』『雪暮夜入谷畦道(ゆきのうらべいりやのあぜみち)』/夜の部『寿曾我対面(ことぶきそがのたいめん)』『於染久松色読販(おそめひさまつうきなのよみうり)』 ●予約=チケットホン松竹 ☎0570-000-489